

OASIS 32(1)2022
[No.118 June 2022]

News and Communications of
The Japanese Association for
Arid Land Studies

おあしす

第33回沙漠学会足寄大会（2022年6月11日～12日）
企画シンポジウム・エクスカーショ



企画シンポジウムで挨拶する渡辺俊一・足寄町長，発表者：平田会員，北野氏，荒木氏（左から）



ハスカップ園での懇親会



北野放牧畜産実践牧場見学



石田めん羊牧場見学



帯広市・満寿屋商店杉山雅則社長の説明の下での昼食



北野牧場での集合写真

日本沙漠学会・第33回学術大会（北海道大会）－報告（大会運営委員会報告）

日本沙漠学会第33回学術大会が、足寄町民センターにおいて、2022年6月11日（土）～12日（日）に開催されました。また本大会公開シンポジウムは、「放牧酪農とSDGs」と題して、足寄町民センターを会場にて行われました。

第33回学術大会

期日：2022年6月11日（土）～12日（日）

場所：北海道足寄町民センター

プログラム

6月11日（土）

研究発表会・口頭発表

総会

公開シンポジウム

研究発表会・ポスターセッション（オンライン）

懇親会

6月12日（日）

エクスカージョン

（足寄町北野牧場・石田めん羊牧場見学）

（帯広市ますやパン 麦音見学）

学術大会の概要

本大会では、新型コロナウイルス感染防止対策として、会場とオンラインによるハイブリッド方式で研究発表会を行い、口頭発表はオンサイトのみ13件の発表があり、オンラインポスター発表は6件がなされました。オンサイトの口頭発表もZoomによるオンライン同時配信を行いました。

研究対象地は、モンゴル3件、中国2件、ジブチ2件、オーストラリア2件、アルジェリア1件、モーリタニア1件、エチオピア1件、ウガンダ1件、ボツワナ1件、アフリカ全域1件、パレスチナ1件、イラン1件、ウズベキスタン1件、日本1件、ミャンマー1件、インドネシア1件、その他場所を特定しないもの3件と、多様な地域での研究成果が発表されました。

オンサイト参加者数は48名（うち学生会員10名、会員以外2名）、オンライン参加者は53名の最大同時アクセスを数えました。なお、次回の学術大会開催地は、宮崎大学（2023年5月27日（土）～28日（日））となります。

学会賞

2022年度日本沙漠学会賞は、残念ながら該当者がいませんでした。

ベストポスター賞

ベストポスター賞には、鳥取大学の山崎由理会員の「林間放牧における放牧地への環境影響評価」が受賞しました。

【ベストポスター賞受賞者のコメント】

今回が初めての参加にも関わらず、このような賞をいただけたことをありがたく思います。

私も帯畜出身ですので、足寄町は懐かしかったです。今回は都合が合わずに、現地参加できなかったことがとても残念でした。また、企画シンポジウムでは勉強させていただくことがとても多く、「放牧」の素晴らしさを再認識するとともに、放牧研究に携われることを誇りに感じました。放牧についてはまだまだ初心者ではありますが、これから私なりに調査を進めて、放牧の素晴らしさを広めていきたいと思いますので、皆さま何卒よろしくお願いいたします。

山崎



受賞したポスターのWeb展示と質疑応答コメント

公開シンポジウム

テーマ：「放牧酪農と SDGs」

演題1「放牧酪農とSDGs—北海道足寄郡足寄町を事例として—」

演者：帯広畜産大学 平田昌弘教授

概要 ①はじめに：乳牛を飼養する経営としては、放牧、つなぎ飼い、フリーストール、バーンストールなどの形態がある。いずれにも利点と欠点とがあり、いずれかが正解・不正解であるというような経営ではないところが酪農の面白さであり、難しさであり、醍醐味である。今回は、放牧酪農の事例を通じて、その魅力と可能性、地域創生のために求められている課題について共に考えてみたい。②なぜ足寄で放牧酪農なのか：人口減少トレンドと地域創生の不可欠性；丘陵地帯に立地；地方都市から遠隔地に立地；「放牧酪農推進の街宣言」（2004年6月15日）。③放牧酪農の魅力と足寄という地域の魅力：【放牧酪農の魅力】として・経営改善：・Low Input and Low outcome, ・自給飼料の供給向上経営改善, 資源循環；・魅力ある創造性に満ちた酪農経営：新規就農者の継続的な参画；・ゆとり時間の創出のしやすさ：地域交流の可能性を開く；・美しく豊かな景観形成；【足寄という地域の魅力として】・地域の豊かな資源：天然生林、阿寒・摩周国立公園、化石発掘、石灰華半ドーム、ラワンブキなどがある；・育つ職人：チーズ工房、パティシエ、イタメシ；・交流に理解のある施設：宿泊施設、交流の場。④放牧酪農の課題と足寄という地域の課題：【放牧酪農の課題】・季節性：暑熱・寒冷ストレスを受け易い、・乳房炎への影響、栄養状態、・害虫被害を受け易い。【足寄という地域の課題】・地域の豊かな資源の観光資源化、・共通価値の創造：多様なステークホルダー（異形態の酪農経営・異業種を繋ぐ）。⑤SDGsの視点からの放牧酪農の課題 ヨーロッパアルプスの事例として・SDGsが問うていること：統合された相互に依存し合う経済的・社会的・環境的持続可能性、・地域社会との信頼関係、・バリューチェーンの構築、・共通価値の創造 CSV: Creating Shared Value、【放牧酪農の課題】：多様なステークホルダー間での価値創造→〈互いに語り合う〉〈新しい価値を想像するというイニシアティブと楽しさ〉、・山地だからこそ、遠隔地だからこそ放牧酪農が地域創生の原動力となりえるCSVがキーである。

演題 2「牛と共に育む放牧酪農」

演者：北海道足寄郡足寄町北野牧場 北野 紘平様

北野牧場の概要 飼養頭数 45 頭（経産牛 38 頭）：ジャージー種，ブラウンスイス種，ホルスタイン種，交雑種；草地面積 62^{ヘクタール}（放牧地 22^{ヘクタール}兼用地 26.5^{ヘクタール}採草地 13.5^{ヘクタール}），飼養形態放牧主体（夏期昼夜放牧定置放牧），労働力家族経営（夫婦）で年間出荷乳量 220t，その他自家授精，草地更新なし，農薬化学肥料なし，完熟堆肥散布。【飼養施設】牛舎：20 頭スタンション対尻式；バンクリーナーなし，夏は搾乳舎として，冬期は夜間のみ繋留（20 頭），通年，入替え搾乳。フリーバーン：主に冬期に利用，搾乳牛，乾乳牛，育成牛（授精適期～），給餌小屋（フリーバーン内）：乾草，ラップサイレージ給与専用（トラクター使用），仔牛ハッチ：約 5 頭分（牛舎内自作），育成スペース：牛舎内と外に 2 か所，約 6 頭分共に自作。倉庫：乾草，機械を保管。所有機械：ミルカー 4 台（新品），バルククーラー 2,500L（中古），トラクター 2 台（中古 125 馬力，79 馬力），牧草収穫作業機 1 式（中古），マニウス，プロキヤス，トレーラー（中古），ミニユンボ，軽トラ，溶接機。飼養管理：【夏期】定置放牧を行い，補助飼料：ビートパルプ（5kg）大麦（1kg），5～6 月放牧専用（22ha），7～10 月兼用地放牧（48ha）；【冬期】牛舎繋留とフリーバーン利用，低水分ロールラップ乾草，ビートパルプ（5kg）大麦（1kg），敷料麦稈（冬期は，3 日に 1 本）。草地管理：4 月放牧慣らし，5 月完熟堆肥散布牧柵・牧道補修，兼用地を閉める（スプリングフラッシュ），6 月下草刈り，7 月 1 番草収穫兼用地放牧，8 月アザミ刈り，9 月牧柵・牧道補修整備，10 月ロール給与開始。定置放牧とは…

放牧期間中，大牧区で放牧を継続して行う事である。定置放牧のメリットは牛が自由に行動，採食できる，電牧の張り替えが少ない，シンプル。定置放牧のデメリットは採食量が分かりにくい，放牧地の面積が必要，牛舎近くの牛道の整備が必要。

演題 3「放牧酪農による持続的な地域の発展」

酪農学園大学 荒木和秋 名誉教授

概要 世界的に展開している工場式畜産（CAFO）は環境問題を深刻化させているが，それらの問題を解決するのが自然共生型畜産＝放牧である。①北海道酪農の展開と現状：北海道に本格的な酪農が導入されたのは 150 年前からである。その後，昭和初期の大冷害対策として根釧地域における畑作から酪農への転換，さらに戦後における様々な酪農振興策により酪農は進展した。大きな成長は，60～70 年代の草地開発によるところが大きい，80 年代以降はもっぱら輸入飼料に支えられ，生産の主体は大規模層に移行していく。その中でも近年，工場式酪農が大きく進展するものの，2021 年以降，新型コロナによる牛乳需要の減少や，飼料などの生産資材の高騰により大規模経営は苦境に立たされている。②世界の畜産の飼養形態：世界の酪農は多くが家族経営によって担われ，飼養形態は通年放牧，夏期放牧，通年舎飼いに区分され風土と飼料基盤に立脚している。しかし，近年，風土や土地基盤と切り離された CAFO が急速に進展している。CAFO は畜産の短命化を招きかつ大量の糞尿の排出による環境汚染で住民の健康被害を引き起こしている。さらに，飼料確保のために南米等での森林開発や草地転換による飼料生産によって地球環境問題も引き起こしている。③畜産を巡る世界の潮流の大転換：しかし，世界はカーボンニュートラルに大きく舵を切り，農業分野においても EU はファーム to フォークで資材投入の大幅な削減を打ち出し，日本政府もみどりの食料システム戦略で追随している。SDGs も環境対策の大きな動きになっているが，アニマルウェルフェアが欠落している。そこで薬剤耐性菌の増加に対して人・動物・環境の健康問題を一緒に解決する One Health（ワンヘルス）の取り組みが米国を中心に日本でも広がっている。④ニュージーランド酪農とオランダ酪農：放牧は家畜を牛舎から解放するアニマルウェルフェアそのものであり，牧草の成長に合わせた季節繁殖による放牧酪農が全国で展開している。EU の最大の農産物輸出国であるオランダでは，寒冷気候でありながら年間 120 日の放牧を 8 割の酪農が実践されている。⑤足寄町における放牧の成功と季節繁殖：足寄町の酪農家は放牧の意義を理解し集約放牧事業に取り組み成功した。その成功を受けて新規就農者が毎年足寄町に定着している。NZ を訪問した酪農家や体験した新規就農者が放牧技術を深化させている。季節繁殖は他地区でも取り組まれ成果を上げている。⑥放牧は地域の持続的発展に貢献する：足寄町の放牧酪農の成功は，後継者の就農を増やし，また新規就農者の増加によって子供の数を増加させ学校など地域を活性化させている。足寄という風土に立脚した自然共生型畜産である放牧は，牛，人，経営，地域，環境を健康にする持続的生産方式である。

懇親会

公開シンポジウム終了後，足寄町ハスカップ園にて学会関係者 40 名，地元関係者 10 名，計 50 名の参加者によるガーデンニング会場で立食形式での「地元足寄町の食材をふんだんに使ったバーベキュー」の懇親会が行われました。あい

にく大雨の天気でしたが、皆さん美しいハスカップ園のガーデンの中庭で足寄湖の綺麗な風景を感じながら、石田めん羊牧場のラム肉、シカ肉、ホタテ、全国チーズコンテストでグランプリ金賞に輝いたチーズ、季節の野菜などをふんだんに使ったバーベキューやチーズケーキを楽しみました。

エクスカーション

学術大会次日の12日に、北海道足寄郡足寄町茂喜登牛に位置する北野牧場を訪問し、家畜感染症対策のためにブーツを履いて牧場を散策し、代表の北野紘平氏から放牧ウシの行動と牧草の利用について説明を受けました。その後、貸切バスの中で一般社団法人びびっどコラボレーションの櫻井光雄様と坂本秀文様の説明を受けながら足寄町の石田めん羊牧場に向かい家畜感染症対策のためにブーツを履き、代表の石田直久氏の説明を受けながらヒツジの放牧地を散策しました。「石田めん羊牧場」は、2001年新規就農で始めた足寄町の羊牧場です。夫婦2人だけで経営するヒツジだけを放牧する小規模な牧場です。

また帰路の途中昼食場所として、帯広市ますやパン（麦音）を訪れ、小麦畑のある敷地内で昼食を取りながら満寿屋商店店長の杉山雅則氏の説明を受けました。ますやパン（麦音）はパン屋として日本一の面積の敷地をもちます。販売されているパンが、100%十勝産の小麦でできた焼きたてパンであることを知りました。

【第33回日本沙漠学会学術大会実行委員会委員長 星野仏方】



北野牧場での集合写真



石田めん羊牧場で石田代表の説明を受ける



企画シンポジウムでの発表の様子（足寄町は平成16年6月15日に「放牧酪農推進のまち」宣言をした日本一放牧酪農を推進している町であることが強調された）



企画シンポジウムの会場の様子



懇親会場のハスカップ園 (https://www.town.ashoro.hokkaido.jp/kanko/about/folder/ashoro_stories.html)

2022 年度日本沙漠学会総会報告

2022年6月11日（土）12：45～、北海道足寄町町民センター多目的ホールおよびZoomミーティング会場のハイブリッド形式で、総会が開催された。正・名誉会員数203名に対しオンライン出席者41名、委任状27名、合計68名で定足数（1/3以上）を満たし総会が成立したことを確認した。総会の開催にあたり森尾会長から挨拶があり、藤巻会員を議長に選出・承認の後、議事を進行した。島田総務担当理事より2021年度事業報告、続いて高橋財務担当理事より決算報告、そして渡邊監事より会計監査報告が各々説明され、その後承認された。また、2022年度事業計画（案）・予算（案）について島田理事および高橋理事から、それぞれ説明がなされ、承認された。また、学会賞の一つ「奨励賞」の対象範囲を広げる内規改正がなされたことについての報告がなされた。

日本沙漠学会 2022 年度総会記事（総務報告）

1. 2021 年度事業経過・決算・会計監査報告

(1) 2021 年度事業報告

1) 会務報告

a. 会員 2022 年 3 月 31 日現在，会員数は以下の通り．

名誉会員： 4 名
 正会員： 203 名（入会 9 名，退会 14 名）
 学生会員： 22 名（入会 9 名，退会 13 名）
 賛助会員： 4 社
 購読会員： 5 機関

b. 会議

(a) 日本沙漠学会 2021 年度総会

・2021 年 5 月 30 日（日），10：00～，Zoom ミーティング会場において，総会が開催された．総会の概要を「おあしす」No. 114（2021 年 6 月）に掲載した．

(b) 評議員会（第 34 回）

・2021 年 4 月 10 日（土）15：00～16：30，Web 会議により開催された．議事概要を「おあしす」No. 114（2021 年 6 月）に掲載した．

(c) 理事会

・第 149～152 回理事会を開催した．第 149 回議事録を「おあしす」No. 114（2021 年 6 月）に，第 150 回議事録を「おあしす」No. 115（2021 年 9 月）に，第 151 回議事録を「おあしす」No. 116（2021 年 12 月）に，第 152 回議事録を「おあしす」No. 117（2022 年 3 月）に各々掲載した．

(d) 編集委員会

・沙漠研究 Vol. 31 No. 1～Vol. 31 No. 4 を編集し発行した．
 ・メール会議によって委員会内における審議を行った．

(e) 学会賞審査委員会

・2021 年度の学会賞審査委員会をメール会議により行った．

(f) 学会会員数減少への対策検討委員会

・委員会内においてメールにより情報交換を行った．

2) 刊行物

a. 日本沙漠学会誌「沙漠研究」

・Vol. 31 No. 1（2021 年 6 月），Vol. 31 No. 2（2021 年 9 月），
 Vol. 31 No. 3（2021 年 12 月），Vol. 31 No. 4（2022 年 3 月）
 ※J-STAGE による電子版の公開と年度末の合本号冊子の発行

b. ニュースレター「おあしす」

・No. 114（2021 年 6 月），No. 115（2021 年 9 月）
 No. 116（2021 年 12 月），No. 117（2022 年 3 月）
 ※Web サイトでの電子版の公開

c. 日本沙漠学会講演要旨集

- ・第 32 集（第 32 回学術大会，2021 年 5 月 29 日～5 月 30 日）

※Web サイトでの電子版の公開

d. 学会ホームページによる情報提供

- ・学会ホームページによる活動状況に関する情報提供を行った。理事会，分科会，シンポジウム，関連学協会の催事等の開催案内と報告等をタイムリーに掲載し更新した。

3) 講演会及び研究会等の開催

a. 第 32 回学術大会

- ・2021 年 5 月 29 日（土）～5 月 30 日（日），当初は北海道（酪農学園大学）での開催を予定していたが，新型コロナウイルス感染拡大の影響下で対面での開催は困難であると判断し，オンラインでの実施とした。ポスター発表については，事前に Google ドライブにてポスターを掲示しコメント機能で質疑応答・討論を行い，さらにショートプレゼンテーションを併用した。

b. 2021 年度秋季シンポジウム

- ・2021 年 12 月 11 日（土）に「with コロナでの沙漠研究：post コロナに向けてのグッドプラクティスをシェアしよう」と題してオンライン（Zoom）形式で開催した。2020 年度，2021 年度に学会員に対して行った緊急アンケート「海外調査への新型コロナ影響アンケート」の後，再開した現地調査・業務の状況について紹介するとともに，特に先進的な事例を紹介した。

c. その他

- ・なし

4) 分科会等の活動

a. 沙漠工学分科会（2022 年 3 月 31 日現在，登録者数：87 名）

会長：田島 淳（東京農業大学）

幹事：鈴木伸治（東京農業大学）

連絡先（事務局）：〒156-8502 世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科

Tel：03-5477-2351，Fax：03-5477-2620

E-mail：s4suzuki@nodai.ac.jp

活動実績：2022 年 2 月に第 33 回講演会を行う予定であったが，新型コロナウイルス感染拡大に伴い東京都で 12 月に発令された蔓延防止等重点措置が延長されたため，今年度も開催を見送った。

b. 乾燥地農学分科会（2021 年 3 月 31 日現在，登録者数：181 名）

会長：石川祐一（秋田県立大学）

連絡先（事務局）：〒914-0041 東京都町田市玉川学園 8-3-23

（株）アースアンドヒューマンコーポレーション 気付

FAX：018-872-1677

E-mail：owner-cadal@ijjnet.or.jp

活動実績：(1) 2021 年 11 月 25 日（木）、第 30 回講演会「地球温暖化と乾燥地の食から未来を探る」のテーマで Web 開催した。話題提供者と演題は、石川祐一（秋田県立大学）「本公演会の開催趣旨について」、篠田雅人（名古屋大学）「人類と砂漠化—近未来ビジョン—」、岩井雅之（ファームドゥホールディングス）「国内外でのソーラーシェアリング事例およびイスラエル灌漑システム・ヤシバッグ（スリランカ産）と IT 技術の導入」、片山直美（名古屋女子大）「昆虫食（未来食）それは地球の食糧危機を救い宇宙の長期旅行を可能にする」、石本雄大（青森公立大）「アフリカ半乾燥地における小規模農家の食生活とマメ食—ブルキナファソ北部およびザンビア南部の事例—」（以上、敬称略）である。54 名の参加者を得た。(2) 学会ニューズレター「おあしす」内の記事として分科会機関紙「CADAL ニュース」第 67 号を掲載した（おあしす 31(3)）。(3) メーリングリストを開設・運用しており、関連する講演会・シンポジウムの開催および参加者の情報提供等に活用された。

c. 沙漠誌分科会（2021 年 3 月 31 日現在，登録者数：64 名）

会長：縄田浩志（秋田大学国際資源学部）

連絡先（事務局）：〒010-8502 秋田市手形学園町 1 番 1 号（河合研究室）

E-mail：sabakushi.c@gmail.com

活動実績：(1) 2021 年 12 月 19 日（日）、秋田大学（秋田市）にて、沙漠誌分科会研究会「フリー&オープンソースソフトウェアを用いたフィールドワークと分析の実践①」を開催した。(2) 2021 年 12 月 18 日（土）、秋田大学（秋田市）で開催された人間文化研究機構「現代中東地域研究」秋田大学拠点次世代共同研究「“熱”からみる自然資源利用の知と実践—中東・ユーラシア乾燥地をフィールドに—」第 5 回研究会を共催した。

d. 風送ダスト研究会（2021 年 3 月 31 日現在，会員数：12 名）

会長：黒崎泰典（鳥取大学）

連絡先（事務局）：〒680-0001 鳥取市浜坂 1390

鳥取大学 乾燥地研究センター

TEL：0857-21-7032, FAX：0857-29-6199

5) 国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

- a. Desert Technology XIV／International Conference on Arid Land (DT14/ICAL：2021 年 9 月 7 日～9 月 10 日) がオンラインで実施された。
- b. International Desert Council (IDC：2021 年 9 月 8 日) がオンラインで実施され、次回 DT15/ICAL の開催 (Jordan 2023) について議論がなされた。
- c. 日本地球惑星科学連合での活動。
- d. 地理学連携機構・地理関連学会連合への協力。

(2) 2021 年度決算報告

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

(単位：円)

	費目	決算額	予算額	対予算額増減	備考
収入の部	繰越金	6,934,921	6,934,921		
	会費	1,784,000	2,074,000	-290,000	予算額対比86%
	1)入会金	18,000	10,000	8,000	18件
	2)正会員費	1,496,000	1,664,000	-168,000	187件(2021年度会費152件+過年度前受35件)
	3)学生会員費	40,000	130,000	-90,000	8件
	4)購読会員費	30,000	70,000	-40,000	3件
	5)賛助会員費	200,000	200,000	0	4社
	その他収入	203,131	370,000	-166,869	
	1)出版費	180,000	360,000	-180,000	著者負担金81,000円+99,000円=180,000円 大会発表参加費2,000円×8=16,000円 著作権料7,124円 銀行利息7円
	2)その他	23,131	10,000	13,131	
支出の部	(小計)	1,987,131	2,444,000	-456,869	
	合計	8,922,052	9,378,921	-456,869	
	加盟団体会費	10,000	10,000	0	日本地球惑星科学連合年会費
	学会誌発行費	800,068	1,025,000	-224,932	
	1)データ作成費	561,000	600,000	-39,000	沙漠研究及びおもしろ編集費 30巻合本作成費用
	2)合本発行費	220,000	400,000	-180,000	
	3)発送費	19,068	25,000	-5,932	発送手数料・メール便
	活動準備金	90,504	805,000	-714,496	
	1)大会預託金	0	200,000	-200,000	
	2)シンポジウム預託金	0	100,000	-100,000	
	3)分科会交付金	90,504	205,000	-114,496	沙漠誌分科会7,784円 乾燥地農学分科会82,720円
	4)DT14預託金	0	300,000	-300,000	
	表彰費	0	20,000	-20,000	
	会議費	0	12,000	-12,000	
	事務運営費	46,607	330,000	-283,393	
	1)通信・郵送費	46,607	100,000	-53,393	振込手数料 会費請求等郵送代
	2)印刷費	0	50,000	-50,000	
	3)事務費	0	50,000	-50,000	
	4)交通費	0	100,000	-100,000	
	5)諸雑費	0	30,000	-30,000	
	学会業務等外部委託費	508,200	508,200	0	定額462,000円+消費税(10%)
	予備費	0	50,000	-50,000	
	(小計)	1,455,379	2,760,200	-1,304,821	
	次年度繰越金	7,466,673	6,618,721	847,952	
	合計	8,922,052	9,378,921	-456,869	

(3) 貸借対照表および監査報告

貸 借 対 照 表

(2021年4月1日～2022年3月31日)

		(単位:円)	
科目	金額	科目	金額
郵便振込口座	7,098,466	借入金	0
三菱UFJ銀行	350,803	次期繰越金	7,466,673
現金	17,404		
合 計	7,466,673	合 計	7,466,673

会 計 監 査 報 告

日本沙漠学会2021年度会計報告に基づき、帳簿・帳票類を監査したところ、適正に運営されたことを確認いたしました。

2022年4月14日

日本沙漠学会 監事 豊田 裕道

日本沙漠学会 監事 渡邊 文雄



2. 2022 年度事業計画及び予算（案）

(1) 2022 年度事業計画（案）

1) 会務

a. 会員 2022 年 4 月 1 日現在、会員数は以下の通り。

名誉会員：	4 名	正会員：	203 名
学生会員：	22 名	賛助会員：	4 社
購読会員：	4 機関		

b. 会議

(a) 日本沙漠学会 2022 年度総会

- ・2022 年 6 月 11 日（土）北海道足寄町・Web ハイブリッド開催。

(b) 評議員会（第 32 回）

- ・2022 年 4 月 16 日（土）Web 会議室にて既に開催。

(c) 理事会（第 152 回）

- ・2022 年 4 月 16 日（土）Web 会議室にて既に開催。他 4 回の開催。

(d) 総務委員会 適宜開催する。

(e) 財務委員会 適宜開催する。

(f) 編集委員会 適宜開催する。

(g) 企画委員会 適宜開催する。

(h) 学会賞審査委員会

- ・2022 年 6 月 11 日（土），第 33 回学術大会におけるベストポスター賞の審査を行う。また委員会を適宜開催する。

(i) 学会会員数減少への対策検討委員会 適宜開催する。

(j) 会則等改定委員会 会長の要請により適宜開催する。

2) 刊行物

a. 日本沙漠学会誌「沙漠研究」

- ・Vol. 32 No. 1（2022 年 6 月），Vol. 32 No. 2（2022 年 9 月），
Vol. 32 No. 3（2022 年 12 月），Vol. 32 No. 4（2023 年 3 月）
※J-Stage による電子版の公開と年度末の合本号冊子の発行

b. ニュースレター「おあしす」

- ・No. 118（2022 年 6 月），No. 119（2022 年 9 月），
No. 120（2022 年 12 月），No. 121（2023 年 3 月）
※Web サイトでの電子版の公開

c. 日本沙漠学会講演要旨集

- ・第 33 集（第 33 回学術大会，2022 年 6 月 11 日）
※Web サイトでの電子版の公開

d. 日本沙漠学会ホームページでの適宜情報発信，入会案内の更新。

3) 講演会の開催

a. 第 33 回学術大会

- ・2022 年 6 月 11 (土) ～6 月 12 日 (日) 北海道足寄町・Web ハイブリッド開催
(研究発表会・総会・学会賞授与等).
- ・2022 年 6 月 11 日 (土) 第 33 回学術大会企画シンポジウム「放牧酪農と SDGs」
(足寄町町民センター・多目的ホール)

b. 秋季シンポジウム

- ・2022 年 10 月 15 日 (土) に「遊牧を考えるー過去・現在・未来 (仮)」と題して、ハイブリット方式またはオンライン形式で開催予定.

c. その他

- ・適宜ミニシンポジウムを開催.

4) 分科会講演会等の活動

a. 沙漠工学分科会

- ・2022 年 12 月ごろに第 33 回沙漠工学分科会講演会を開催予定.
- ・分科会会員と関連団体組織等との交流 (共同研究等).

b. 乾燥地農学分科会

- ・2022 年 11 月に第 31 回乾燥地農学講演会を開催
- ・分科会機関誌「CADAL ニュース」第 68 号をおあしすに掲載

c. 沙漠誌分科会

- ・沙漠研究の特集論文として、2018 年 10 月開催の研究会「サウディアラビア、ワーディ・ファーティマ半世紀前の記録とその活用に向けた方法論の検討」に関する小特集への投稿を継続。2019 年度秋季シンポジウム「半世紀前の写真資料の研究活用：サウディアラビア、ワーディ・ファーティマ地域における再調査から」に関する小特集を企画・投稿.

d. 風送ダスト研究会

5) 国内外の研究者・関係機関との交流及び協力

- Desert Technology XV (2023 年 5 月*) ヨルダン (死海) 開催への協力.
- 日本地球惑星科学連合活動への協力.
- 地理学連携機構・地理関連学会連合活動への協力.
- その他 国内外の講演会等への協力・関係機関との交流及び協力.

6) その他本会の目的達成のための事業

役員選挙に関する活動, その他必要な事業を随時開催.

* : Desert Technology XV の日程は、2023 年 6 月開催に変更されました.

(2) 2022 年度予算 (案)

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

(単位：円)

	費目	予算額	前年度決算額	対前年度額増減	備考
収入の部	繰越金	7,466,673	6,934,921	-	
	会費	2,004,000	1,784,000	220,000	
	1) 入会金	10,000	18,000	-8,000	新規会員10名想定
	2) 正会員費	1,624,000	1,496,000	128,000	正会員数(2022.4.1現在)203名
	3) 学生会員費	110,000	40,000	70,000	学生会員数(2022.4.1現在)22名
	4) 購読会員費	60,000	30,000	30,000	4機関+繰越2件
	5) 賛助会員費	200,000	200,000	0	4社
	助成金	0	0	0	
	その他収入	370,000	203,131	166,869	
	1) 出版費	360,000	180,000	180,000	原著論文2報×4号
	2) その他	10,000	23,131	-13,131	著作権料、利息等
	(小計)	2,374,000	1,987,131	386,869	
	合計	9,840,673	8,922,052	918,621	
支出の部	加盟団体会費	10,000	10,000	0	日本地球惑星科学連合団体年会費
	学会誌発行費	975,000	800,068	174,932	
	1) データ作成費	600,000	561,000	39,000	各号150,000円×4号
	2) 合本発行費	350,000	220,000	130,000	Vol.31(1)～(4)合冊分
	3) 発送費	25,000	19,068	5,932	発送手数料・メール便・郵送料
	活動準備金	505,000	90,504	414,496	
	1) 大会預託金	200,000	0	200,000	学術大会開催経費(北海道(足寄)大会)
	2) シンポジウム預託金	100,000	0	100,000	シンポジウム開催経費
	3) 分科会交付金	205,000	90,504	114,496	3分科会
	4) DT14預託金	0	0	0	
	表彰費	20,000	0	20,000	学術賞表彰状作成
	会議費	12,000	0	12,000	評議員会・理事会経費
	事務運営費	310,000	46,607	263,393	
	1) 通信・郵送費	100,000	46,607	53,393	振込手数料 会費請求等郵送代
	2) 印刷費	100,000	0	100,000	総会・会議資料・選挙名簿・選挙関連印刷など
	3) 事務費	30,000	0	30,000	消耗品費等
	4) 交通費	50,000	0	50,000	
	5) 諸雑費	30,000	0	30,000	Webサーバー管理費等
	学会業務等外部委託費	508,200	508,200	0	
	予備費	33,800	0	33,800	
	(小計)	2,374,000	1,455,379	918,621	
	次年度繰越金	7,466,673	7,466,673	0	
	合計	9,840,673	8,922,052	918,621	

3. 学会賞審査報告

該当者なし

4. その他

2021 年 10 月 9 日に開催されました理事会（日本沙漠学会第 151 回理事会）において、以下の内規第 10 条の改正案について諮られ、承認されました。これは、学会賞の一つである「奨励賞」の対象範囲を博士課程修了後 10 年以内の会員まで広げ、さらに「自薦」を可とした改正です（おあしす (31-2)「学会記事」）。

日本沙漠学会 内規	
改正案	現行
第 10 条 日本沙漠学会学会賞，学術論文賞，進歩賞および奨励賞に関する内規 (4) 日本沙漠学会奨励賞は，乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する．この場合の受賞者は，当該年度において 35 歳以下の会員，博士課程在籍者または博士課程修了後 10 年以内の会員とする． (9) 受賞候補者の推薦者は，候補者の業績および推薦書を推薦期限までに審査委員会（幹事）宛に郵送してなければならない．推薦者の資格は会員とし，奨励賞のみ「自薦」を可とする．なお，審査委員会の求めに応じて必要な資料を提出しなければならない． 付則 (9) 本内規は 2021 年 10 月 9 日より発効する．(2021 年 10 月 9 日改正，第 10 条の奨励賞に関する内規の改正)	第 10 条 日本沙漠学会学会賞，学術論文賞，進歩賞および奨励賞に関する内規 (4) 日本沙漠学会奨励賞は，乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与する．この場合の受賞者は，原則として，当該年度において 35 歳以下の会員とする．なお，35 歳を超えた会員を奨励賞に推薦する場合には，その理由書を添付する． (9) 受賞候補者の推薦者は，候補者の業績および推薦書を推薦期限までに審査委員会（幹事）宛に郵送してなければならない．推薦者の資格は会員とし，「自薦」は含まない．なお，審査委員会の求めに応じて必要な資料を提出しなければならない．

内規記載ページ：<https://www.jaals.net/規約/内規/>

2020～2022 年度日本沙漠学会役員

会 長	森尾貴広				
副 会 長	鈴木伸治	田中 徹			
監 事	渡邊文雄	豊田裕道			
理 事 (総務担当)	島田沢彦	田島 淳			
(財務担当)	高橋新平	矢沢勇樹			
(編集担当)	川端良子	小島紀徳			
(企画担当)	小長谷有紀	石川祐一			
(学会賞担当)	渡邊三津子	的場泰信			
評 議 員	安部 豊	石川祐一	入江光輝	牛木久雄	川端良子
	北村義信	小島紀徳	児玉香菜子	小長谷有紀	酒井裕司
	真田篤史	篠原 卓	島田沢彦	菅沼秀樹	鈴木伸治
	高橋新平	田島 淳	田中 徹	豊田裕道	縄田浩志
	平田昌弘	藤巻晴行	的場泰信	三木直子	森尾貴広
	森 卓	矢沢勇樹	依田清胤	渡邊文雄	渡邊三津子
顧 問	安部征雄	森 卓			

委 員 会 (参考)

総務委員会 (*¹ 委員長 *² 事務局 ^W: Webmaster)島田沢彦*^{1,W} 田島 淳 真田篤史 篠原 卓 齋藤哲治*²財務委員会 (*¹ 委員長)高橋新平*¹ 矢沢勇樹編集委員会 (*¹ 委員長 *² 名誉委員長 *³ 副委員長 *⁴ 事務局)川端良子*¹ 小島紀徳*² 安部征雄*² 酒井裕司*³ Tim Davis

Richard Harper 安部 豊 石川祐一 石本雄大 石山 隆

入江光輝 遠藤 仁 川田清和 北村義信 児玉香菜子

周 建中 菅沼秀樹 高橋新平 地田徹朗 豊田裕道

縄田浩志 平田昌弘 藤巻晴行 的場泰信 三木直子

森尾貴広 渡邊三津子 三角誠司*⁴企画委員会 (*¹ 委員長)小長谷有紀*¹ 石川祐一学会賞審査委員会 (*¹ 委員長 *² 幹事)渡邊三津子*¹ 的場泰信*² 安部 豊 石本雄大分科会長 (*¹ 沙漠工学 *² 乾燥地農学 *³ 沙漠誌 *⁴ 風送ダスト)田島 淳*¹ 石川祐一*² 縄田浩志*³ 黒崎泰典*⁴

日本沙漠学会名誉会員

安部征雄，牛木久雄，都留信也，真木太一

学 会 事 務 局

2020～2022 年度

日本沙漠学会事務局は、下記の機関において役割分担しています。用件の内容に応じて担当にご連絡下さい。

【日本沙漠学会事務局】

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 共立ビル 2F 株式会社共立内

Tel : 03-3551-9896 Fax : 03-3553-2047 Email : jaals@kyouritsu-online.co.jp

【日本沙漠学会総務担当】

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

島田沢彦：東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科

Tel : 03-5477-2767 Fax : 03-5477-2941 E-mail : shima123@nodai.ac.jp

田島 淳：東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科

Tel : 03-5477-2345 Fax : 03-5477-2941 E-mail : tajima@nodai.ac.jp

【日本沙漠学会財務担当】

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

高橋新平：東京農業大学地域環境科学部造園科学科

Tel : 03-5477-2424 E-mail : shinpei@nodai.ac.jp

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2-17-1

矢沢勇樹：千葉工業大学工学部応用化学科

E-mail : yuuki.yazawa@p.chibakoudai.jp

【日本沙漠学会編集委員会】

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

川端良子：東京農工大学農学研究員国際環境農学部門

Tel : 042-367-5735 E-mail : yoshikok@cc.tuat.ac.jp

編集事務局：株式会社共立 三角誠司気付

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 共立ビル 2F

Tel : 03-3551-9896 Fax : 03-3553-2047 E-mail : jals.editorial@gmail.com

【日本沙漠学会 Web 担当】

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

島田沢彦：東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科広域環境情報学研究室

Tel : 03-5477-2767 Fax : 03-5477-2620 E-mail : shima123@nodai.ac.jp

【日本沙漠学会ホームページアドレス】

<http://www.jaals.net/>

2022 年 日本沙漠学会 秋季シンポジウムのお知らせ

遊動と牧畜が結びついた生業、数千年にわたる辺境地の生活、広く薄い草原利用、それが遊牧、各界のスペシャリストが、皆さんとともに遊牧の過去・現在・未来を俯瞰することで、その起源・原理・持続性に迫る、「遊牧の行く先はどこか、持続的遊牧は可能なのか」、をいま問いかける。

日時：2022 年 10 月 15 日（土）13：00～17：00

場所：オンライン・対面のハイブリッド

レクtoorレ湯河原

〒259-0313 神奈川県足柄下郡湯河原町鍛冶屋 572-1

タイトル：遊牧を考えるー過去・現在・未来

プログラム

13：00～13：05 開会挨拶：森尾貴広（日本沙漠学会 会長 / 筑波大学 教授）

13：05～13：10 開会挨拶：Battsetseg, B.（モンゴル獣医学研究所 所長）

13：10～13：20 趣旨説明：篠田雅人（名古屋大学 教授）

過去セッション 司会：上村 明（東京外語大学 研究員）

13：20～13：40 考古学から考える：白石 典之（新潟大学 教授）

13：40～14：00 近現代史から考える：尾崎 孝宏（鹿児島大学 教授）

14：00～14：10 質疑応答

（休憩）

現在セッション 司会：吉原 祐（三重大大学 准教授）

14：20～14：40 エージェントモデルで考える：宮坂隆文（名古屋大学 助教）

14：40～15：00 野生動物の遊動から考える：伊藤健彦（麻布大学 客員教授）

15：00～15：10 質疑応答

（休憩）

未来セッション 司会：鬼木俊次（国際農林水産業研究センター 主任研究員）

15：20～15：40 気候の将来予測から考える：立入 郁（海洋研究開発機構 グループリーダー）

15：40～16：00 国際情勢から考える：小宮山博（名古屋大学 客員教授）

16：00～16：10 質疑応答

16：10～16：55 総合討論（モデレーター：篠田雅人、各セッションまとめ：司会者）

16：55～17：00 閉会挨拶：鈴木伸治（日本沙漠学会 副会長 / 東京農業大学 教授）

主催：日本沙漠学会

後援：科研費・基盤研究（A）「多重時空間エージェントモデルが拓く遊牧の科学」、国際共同研究強化（B）「気候・社会変動適応のためのモンゴル遊牧ビジョン 2050」、名古屋大学環境学研究科・地球規模課題3「生態系サービスとランドスケープ」

問い合わせ先：シンポジウム実行委員（甲野耀登）

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 環境学研究科

tel: 052-788-6045, e-mail: kloenpo(a)gmail.com ※ (a) を @ に変更してください。

The DT XV International Conference on Arid Land 3-6 June 2023 JORDAN 開催のお知らせ

The DT XV International Conference on Arid Land が 2023 年 6 月 3-6 日にヨルダンで開催されます。参加・発表申し込み等詳細については決まり次第お知らせいたします。

1st circular
The DT XV International
Conference on Arid Land
3-6 June 2023 JORDAN.

The DT XV International Conference on Desert Technology

SWIEM



Contact Us
Conference Chair: Professor Majed
Abu-Zreig
Email: drmajedo@gmail.com
Mobile: +962-795710134

Submission and Conference
email: DT15amman@gmail.com

Website:

DT15 conference, Jordan,
Dead Sea, 3-6 June 2023



Conference Chair, Prof. Majed Abu-Zreig
Deserts generally envision places
where sand dunes spread. The U. N.
Convention to Combat Desertification
(UNCCD) in 1994 defined it as degraded arid semiarid
and dry sub humid areas resulting from various
factors, including climatic variations and human
activities, including unsustainable farming, mining,
overgrazing, and clear-cutting of land and manmade
climate change. 41% of Earth's land area, home to
over 2 billion people, falls in the category of deserts.
Ninety percent of Jordan area is classified as arid land
receiving less than 100 mm of annual rainfall. The
issues of deserts and desertification are a global
concern, requiring continued and expanding research
to mitigate the consequences. As the dynamics of
land, climate and biodiversity are intimately
connected, the International Desert Council (IDC)
facilitates cooperation and dissemination of
knowledge among scientists, researchers and policy
makers from diverse fields, in combating
desertification and land degradation. Desert
Technology (DT) Conferences since 1991 is one such
unique initiatives of IDC, which facilitates
technological breakthroughs and innovations.
Building upon previous experiences and
accomplishments, Desert Technology conference 15
(DT15) offers an opportunity to participate in
discussions and the presentation of research projects
(including natural, technological and human sciences)
aimed at overcoming constraints of desertification.
DT15 will be held to discuss the impact of
desertification, possible solution and future
challenges in the backdrop of climate change and
food security in deserts and arid areas. On behalf of
the Desert Technology 15 Organizing Committee, I
invite and welcome all of you to Jordan.

The DT XV International Conference on Desert Technology and Arid Lands

Jordan/Dead Sea
3-6 June 2023

Organizing Committee

Prof. Majed Abu-Zreig, Chair
Prof. Khaled Shawaqfeh/Jordan
Prof. Khaldoun Bani Hani/Saudi Arabia
Prof. Amjed Zraiqat/Jordan
Dr. Leith Al Rousan/Jordan
Dr. Rami Alkhatib
Dr. Mutawakil Obeidat
Mr Moath Alenizi/Jordan

History of DT /ICAL Conferences

DT-1: 1991 - Santa Barbara, USA
DT-2 : 1995 - Hawaii, USA
DT-3 : 1995 - Matsuy, Japan
DT-4 : 1997 - Kalgoorlie, Australia
DT-5 : 1999 - Nevada, USA
DT-6 : 2001 - Urumqi, China
DT-7 : 2003 - Jodhpur, India
DT-8 : 2005 - Nasu, Japan
DT-9 : 2008 - Douz, Tunisia
DT-10/ICAL-1 : 2011 - Norio, Japan
DT-11 : 2013 - Texas, USA
ICAL-2 : 2014 - Samarkand, Uzbekistan
DT-12 : 2015 - Cairo, Egypt
DT-13 : 2018 - Pondicherry, India
DT-14 : 2021 - Tokyo, Japan
DT-15: Amman, Jordan



Discover Jordan!

Jordan is one of the most
attractive places for tourists in the
region. The rose city of Petra, the
Dead Sea and Wadi Rum are
among the most important tourist
destinations. Post conference
optional tours will be arranged for
participants to those places.

The organizing committee is looking forward to
welcoming you in Jordan

学会記事

日本沙漠学会第 153 回理事会

日 時：2022 年 4 月 16 日（土）13：00～15：00

場 所：Web 会議

出 席：森尾貴広（会長）、鈴木伸治、田中徹（以上、副会長）、渡邊文雄（以上、監事）、矢沢勇樹、高橋新平、川端良子、小島紀徳、小長谷有紀、渡邊三津子、的場泰信、田島淳、島田沢彦（以上、理事）、森卓（以上、顧問）、酒井裕司（副編集委員長）、真田篤史、篠原卓（以上、総務委員）、縄田浩志（以上、分科会会長）、齋藤哲治（事務局）

委任状：石川祐一

議 題：

I. 審議事項

1. 2022 年度総会への提出議案について

- ・資料に基づき、以下の議題について審議し、承認された。
 - ① 2021 年度活動報告（島田総務担当理事より報告）
 - ② 2021 年度決算報告（高橋財務担当理事より報告）
 - ③ 2021 年度会計監査（渡邊監事より報告）
 - ④ 2022 年度活動計画（島田総務担当理事より報告）
 - ⑤ 2022 年度予算（高橋財務担当理事より報告）
 - ⑥ その他：内規の改正報告等（学会賞：評議委員会では報告）（島田総務担当理事より報告）
 - ・2022 年度活動計画の「Web ニュースレター発行」について、現在は HP での情報発信が中心となり、おあしすも HP で公開されているため、「Web ニュースレター」の文言を削除し、「ホームページでの適宜情報発信」に含めることとなった。
 - ・DT15 の開催準備の進捗状況については随時確認を行う。
 - ・2022 年度予算の印刷費について、総会資料が電子媒体のみになったため、備考欄の「総会」の文言を削除する。
 - ・総会資料について、審議の結果承認され、評議委員会では審議することとなった。
- ##### 2. 2021 年度学会賞の審査結果
- ・学会賞審査委員会委員長の渡邊理事から、該当者なしとの報告があり、承認された。
 - ・学会賞の推薦を促すために内規の改正も行ったが、その改正が 2021 年度学会賞の推薦締め切りに近い時期となってしまったので、周知が間に合わなかったことが意見として出された。
 - ・総会や講演会で学会賞の推薦について案内する。

3. 第 33 回学術大会と 2022 年度総会の開催について

- ・6 月 11 日（土）、12 日（日）に北海道足寄で開催される第 33 回学術大会と 2022 年度総会をオンサイトとオンラインのハイブリッド開催する案が提案された。現状では、国内出張に関する規制が少なくなっており、クラスター感染の発生は集団での飲食時が主であると考えられる。また、森尾会長や島田理事から、開催地の現状として、オンサイト開催不可となる規制情報はなく、開催会場の使用規定も問題はないことが説明された。以上の議論の結果、現時点ではハイブリッド開催案が承認された。今後の感染状況により、開催方法を変更する可能性もある。
- ・口頭発表は原則オンサイトでのみ行う予定である。

II. 報告事項

1. 投稿論文審査状況報告

- ・投稿論文審査状況、沙漠研究 32 巻 1 号までの編集の進捗状況について報告があった。
 - ・6 月刊行（J-STAGE）の 32 巻 1 号には、原著論文 1 件が掲載される。小特集は 2 件が進行中である。
 - ・拡大編集委員会は、6 月 10 日（学術大会前日）に大会開催地で開催する。
- ##### 2. DT14ICAL の特集号について
- ・通常刊行の 4 号のうちの 1 号として含めず J-STAGE のみで公開すること、冊子体の合本には含めないことが報告された。
 - ・今後の DT 開催後の特集号も同様の刊行方法となることが報告された。
 - ・6 月中に刊行予定である。
- ##### 3. 秋季シンポジウムの特集について
- ・2022 年 10 月 15 日（土）13 時～17 時に「遊牧を考える－過去・現在・未来（仮）」のテーマで開催することが報告された。
- ##### 4. 地理学関連学会連合
- ・Scopus への採録を目指していることが報告された。
 - ・International Geodiversity Day について、サポーター表明することを奨励された。
 - ・高校で「地理総合」が開講されることになり、教員への教育の機会を地理学会が中心となって提供していることが紹介された。
 - ・博物館の法制度の現状と課題や、パンデミックと社会に関する連絡会議などについて紹介された。

5. 地理関連学会連合－人文・経済地理関連学会協議会合同総会

- ・2021年度地理学連携機構や地理関連学会連合などの活動が報告された。
- ・国連の制定した「持続可能な発展のための国際基礎科学年(2022年6月30日～2023年6月30日)」に、日本沙漠学会も協賛機関として登録されている。そのため、今後は関連イベントの実施を検討したい。

6. おあしす

- ・31巻4号の編集状況について報告された。
- ・鈴木理事から、表紙の写真について、掲載論文に関連する写真を使用することが提案された。今後、編集委員と相談して進める。

III. その他

1. 「乾燥地林」(吉川 2022) の書評について、小長谷理事に依頼し、承諾を得た。
2. 「熱帯作物学」(志和地・遠城編 2022) の書評について、鈴木副会長に依頼し、承諾を得た。
3. 名誉会員の評議員任期について
 - ・牛木久雄名誉会員に名誉会員証を贈呈することが報告された。
 - ・牛木名誉会員は現評議員のため、現在の任期は評議員のままとし、次回評議員選挙から被選挙権を持たないことが確認された。
4. 次回以降の大会・シンポジウムについて
 - ・2023年(第34回)大会は、宮崎大学(入江大会委員長)で5月27、28日に開催予定。
 - ・DT15/ICAL2023は、Jordanで2023年3月12～15日(第一候補)あるいは11月5～8日(第二候補)に開催予定。
5. 第154回理事会は、2022年7月16日(土)14時からZoomで開催予定である。

日本沙漠学会令和4年度評議員会

日 時：2022年4月16日(土)15:00～16:30

会 場：Web会議

出 席：森尾貴広(会長)、鈴木伸治、田中徹(以上、副会長)、渡邊文雄(監事)、矢沢勇樹、高橋新平、川端良子、小島紀徳、小長谷有紀、渡邊三津子、的場泰信、田島淳、島田沢彦(以上、理事)、安部豊、入江光輝、北村義信、児玉香菜子、酒井裕司、菅沼秀樹、平田昌弘、依田清胤(以上、評議員)、安部征雄、森卓(以上、顧問)、真田篤史、篠原卓(以上、総務委員)、齋藤哲治(事務局)

委任状：石川祐一、豊田裕道、三木直子

評議員会議題(定数の1/3で成立)

I. 審議事項

1. 2022年度総会への提出議案について
 - ・以下の総会議案について各担当理事から説明があり、審議の結果承認された。
 - ① 2021年度活動報告(島田総務担当理事より報告)
 - ② 2021年度決算報告(高橋財務担当理事より報告)
 - ③ 2021年度会計監査(渡邊監事より報告)
 - ④ 2022年度活動計画(島田総務担当理事より報告)
 - ⑤ 2022年度予算(高橋財務担当理事より報告)
 - ・安部豊評議員から、日本地球惑星科学連合で日本沙漠学会としてどのような活動を行っているか質問があった。森尾会長から、会議への参加や意見の提出などの活動内容が説明された。また、鈴木副会長から、送風ダスト分科会でwebinar会議を実施した例があることが説明された。なお、日本地球惑星科学連合の会議が日本沙漠学会の学術大会の日程と重なることが多く、参加が難しかったことも説明された。
 - ・総会資料について、審議の結果承認された。

II. 報告事項

1. 学会賞の審査結果
 - ・学会賞審査委員会委員長の渡邊理事から、該当者なしとの報告があった。
 - ・学会賞の推薦を促すために内規の改正も行ったが、その改正が2021年度学会賞の推薦締め切りに近い時期となってしまったので、周知が間に合わなかったことの意見が紹介された。
 - ・総会や講演会で学会賞の推薦について案内する。
 - ・小島評議員から学会賞推薦のための委員会を設置する提案があり、内規や会則の改正を伴う可能性もあるが、今後の検討課題とすることとなった。
2. 内規改正
 - ・奨励賞の対象範囲を「博士課程在籍者または博士課程修了後10年以内の会員」とし、奨励賞のみ「自薦」を認める内容に改正することが報告された。
3. 第33回学術大会と2022年度総会の開催について
 - ・6月11日(土)、12日(日)に北海道足寄で開催される第33回学術大会と2022年度総会について、現時点ではオンサイトとオンラインのハイブリッド開催を予定していることが報告された。
4. おあしす31(4)
 - ・31巻4号の編集状況について報告された。

III. その他

1. 名誉会員証授与
 - ・牛木久雄名誉会員に名誉会員証を郵送したことが報告された。

2. 今後の大会・シンポジウム予定

- ・2022 年 10 月 15 日（土）13 時～17 時に「遊牧を
考える－過去・現在・未来（仮）」のテーマで春季
シンポジウムを開催することが報告された。
- ・2023 年（第 34 回）大会は、宮崎大学（入江大会委
員長）で 5 月 27、28 日に開催予定。
- ・DT15/ICAL2023 は、Jordan で 2023 年 3 月 12～15
日（第一候補）あるいは 11 月 5～8 日（第二候補）

に開催予定。

3. その他

- ・森尾会長から、2022 年 3 月 29 日付で日本地球惑星
科学連合からリーダーシップとしてウクライナ情勢
に関する声明が発出されていることが報告された。
- ・入江評議員から、PEACE で来日したアフガニスタ
ン学生が帰国できない、来日予定だったが来日でき
ないなどの問題が生じていることが報告された。

* * * * * 会 員 動 向 * * * * *

●新入会員

正会員

中村 友紀（ID：1162，日本工営株式会社）
Hamed Ebrahimian（ID1166，鳥取大学）
八木 風輝（ID：1167，国際農林水産業研究センター）

学生会員

ユニバト（ID：1163，千葉大学）
村尾 香里（ID：1164，東京農業大学地域環境科学部）
ERUKUDI COLUMBUS ACHAM（ID：1165，鳥取大学）

●退会会員

正会員

須藤 昇
学生会員
小辻 龍郎

賛助会員・団体会員名簿

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel：042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel：03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	136-0071	東京都江東区亀戸 1-42-20	Tel：03-6892-3401
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel：0424-95-1060
